

第二十三回

# 二之丸 薪能



- 日時 平成26年5月8日(木曜日)  
開場午後5時 開演午後6時
- 会場 松山城二之丸史跡庭園内特設能舞台
- 雨天時 松山市民会館中ホール  
開演午後6時30分
- 会費 1,400円  
(文化協会会員1,000円・高校生以下700円)
- 主催 松山市文化協会
- 共催 松山市
- 協力 (公社)愛媛能楽協会  
(公財)松山市文化・スポーツ振興財団
- 後援 松山市教育委員会・愛媛新聞社・NHK松山放送局  
南海放送・テレビ愛媛・あいテレビ・愛媛朝日テレビ  
FM愛媛・愛媛CATV・えひめリビング新聞社  
ウイークリーえひめリック

## 薪能への招待 (能と狂言)

能とは

能面や美しい装束、地謡のコーラスや囃子でシテを盛り立て、古典的で幻想的な幽玄の世界を描きます。特に能楽師は能面を「オモテ」と呼び、曲中の人物に扮するための単なる仮面「道具」ではなく、演者が「オモテ」を掛け、全身全霊を面にかける舞台でこそ、初めて面は命を得ます。

舞囃子とは

能一曲の中の一部分を、面や装束を着けずに地謡と囃子を伴い、紋付、袴姿で演じる略式演奏です。

狂言とは

われわれの身近な人物が登場し庶民のよろこびや悲しみ、おかしさ、おろかさを題材にいきいきと表現する笑いを中心にした対話劇です。

その時代の世相を活写した、その時代の現代劇と言えます。

鑑賞するには「松山城二之丸薪能を楽しむ会」の会費1,400円(文化協会会員1,000円・高校生以下700円)が必要です。会費は、入園時に集めますが、前売券も販売しておりますので、松山市文化協会事務局または各出演者までお問い合わせください。

<松山市文化協会事務局>  
松山市総合コミュニティセンター総合管理事務所内  
TEL:909-8008



## 能「<sup>ふじ</sup>藤」あらすじ

都の僧(ワキ)が善光寺詣に向かう途中で藤の名所 多枯の浦にやってきました。

松にかかる見事な藤を見て僧は古歌を口ずさみます。すると美しい女(前シテ)が現れ、その歌はこの藤に相応しくなく「多枯浦や汀の藤の咲きしより うつろう浪ぞ色に出にける」という古歌を詠むべきだと語ります。そして自分は藤の精であると明かして姿を消します。(中入)

その夜 僧が藤の下で仮寝していると、藤の精(後シテ)が再び現れます。そして仏の功德で花の菩薩となったことを告げ美しい舞を舞った後、春の短夜が明けると共に消えてゆきます。